令和 6 年 8 月 21 日 メルボルン交流抄

「日本の祈り」のメルボルン帰還

平松礼二先生から総領事館に寄贈いただいた日本画「日本の祈り」については、これまでも折に触れて紹介してきました（令和 5 年 8 月 1 日交流抄など）。さて、今回はその続々編となります。

1、 最近、平松先生に以下のように近況報告をしました。

「残暑お見舞い申し上げます。
平松先生、ご無沙汰しております。
先生から当総領事館にご寄贈いただいいた「日本の祈り」の南オーストラリア美術館での展示は、2023 年 7 月 29 日から、2 度の延長を経て、2024 年 7 月 29 日までの１年間となりました。ラッセル・ケルティ氏（南オーストラリア美術館キュレーター)によれば、この期間に「日本の祈り」を観賞した人は推計で延べ 41 万 6000 人にも及ぶのだそうです。出来る限り多くのオーストラリアの方々に観てもらいたいという当初からの目的は達成できたのではないかと思います。先日お会いしたフランシス・アダムソン州総督（チャールズ国王の名代）も、今回の日本画の展示を通じた日本との文化交流を賞賛しておられました。重ねて厚くお礼申し上げます。
8 月に入り、1 年ぶりに再び「日本の祈り」が総領事公邸のサロンに戻りました。改めて、災害が続く日本が苦難を乗り越えて進んで行こうとする日本の底力を表現されているように思いました。今後も、できる限り多くのオーストラリアの方々に鑑賞していただけるように努めたいと思います。」

2、これに対して、平松先生からは、41 万人もの来館者にご覧いただきましたこと、光栄に存じますとの返信を早速いただきました。ありがとうございます。今度また鎌倉にご挨拶に参ります。